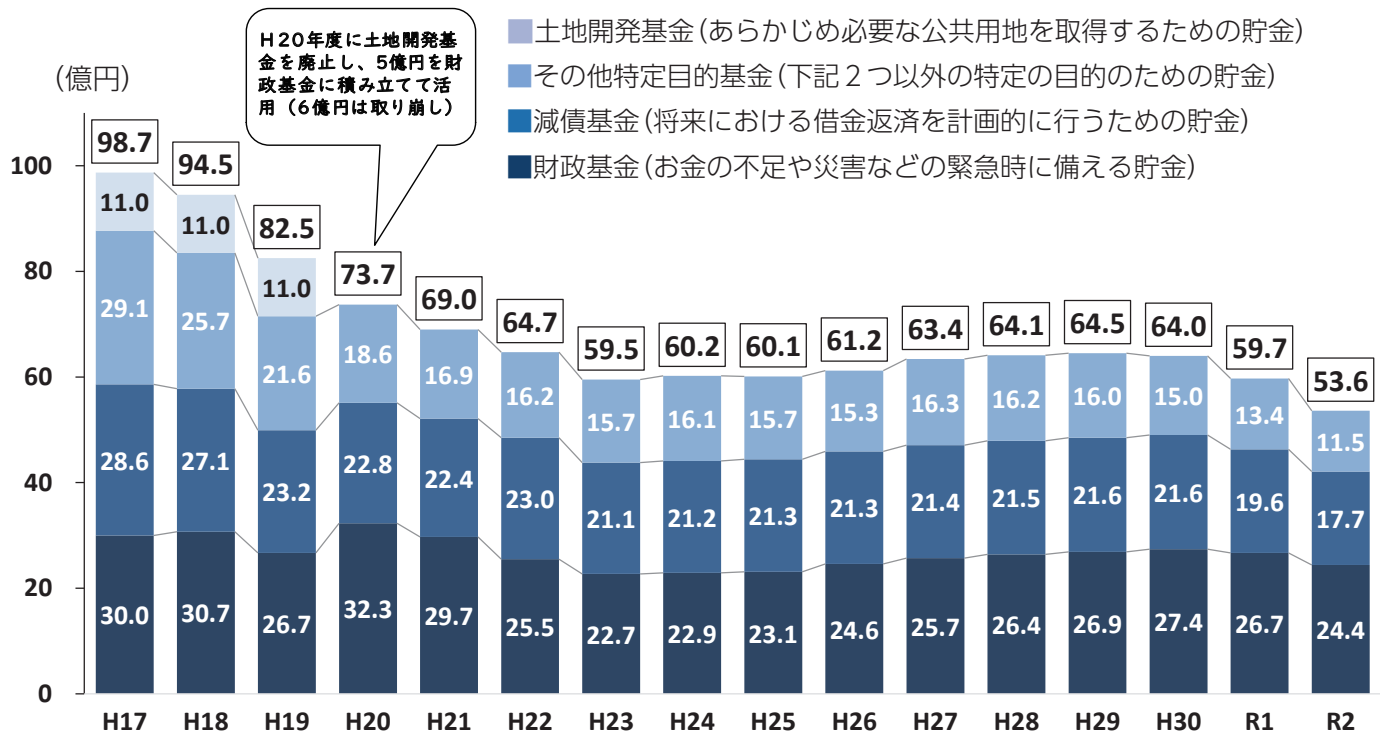


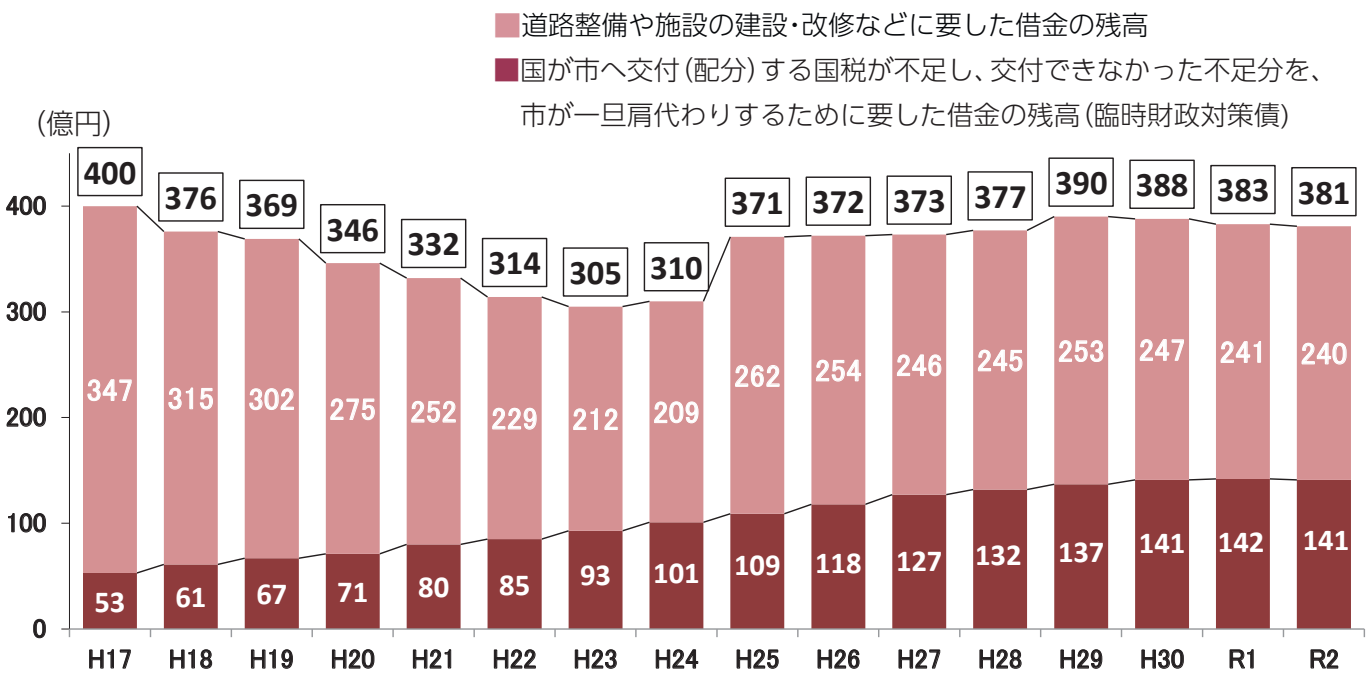
貯金(基金)残高の推移 市の貯金残高の推移をみてみましょう。

貯金残高は、平成17～23年度までは約39億円減少し、平成24～29年度までは増加傾向でした。平成30年度以降は再び減少に転じ、令和元年度では4.3億円、令和2年度では6.1億円、前年度から減少しています。



借金(市債)残高の推移 市の借金残高の推移をみてみましょう。

平成24年度までは過去の大型事業(市役所や清掃センターなどの建設)の借金返済が進んだことで、借金残高は減少しました。ところが、平成25年度に旧市民病院の清算と北播磨総合医療センターの建設、その後も中央図書館や総合体育館の建設の借金などにより残高は高止まりしています。



次回(12月号)は、財政状況の分析および今後の見通しなどをお知らせします。

持続可能な財政基盤の 確立に向けて

～シリーズ② 三木のお財布事情って?～

問 (市)経営管理課 経営管理係



● 市の貯金残高は減少する一方で、借金残高は高止まりしており財政運営上の課題となっています。

● 前回お知らせしたように、平成17年度以降、支出額全体は増えているにもかかわらず、市税など市の基本となる収入はほぼ横ばいのままです。

● 前回は前回の続きで、収入、貯金および借金の状況をみてみましょう。

【今回のポイント】

前回(広報みき8月号)は、市の会計を家計に置き換えて、給料(市税)だけでは生活費(人件費や扶助費など)を賄えず、親からの仕送り・援助(地方交付税など)に頼っている状況であることなどについてお知らせしました。

今回は前回の続きで、収入、貯金および借金の状況をみてみましょう。

過去の収入の推移 市の収入の内訳とその推移をみてみましょう。

【 】で囲んだ収入は行政サービスを提供するために基本となる収入ですが、平成17年度当時から190億円前後でほぼ横ばいです(増加していません)。

一方で、国や県が少子化対策、経済対策などの政策を拡充したことに伴い、市もこれらの事業に取り組んできたことから「国や県からの個別の事業に対する補助金など」が増加しています。

